

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 2 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24330156

研究課題名(和文) テレビ文化アーカイブズの構築 テレビ番組研究・テレビCM分析を統合する視点の探求

研究課題名(英文) Archive Construction of Television Culture; A Quest for Integrated Analysis of Television Contents and Television Commercials

研究代表者

石田 佐恵子 (Ishita, Saeko)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：70212884

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、放送文化に関する各種アーカイブズを基礎資料と捉え、テレビ番組およびテレビCM分析をも統合する研究視点を確立することを目的として展開された。成果として、(1)テレビ文化の総合性を反映したアーカイブズを構築した。(2)それらを基礎資料として、テレビ番組研究とCM分析を統合する視点の探求を行った。(3)さらに、総合的なテレビ映像文化の歴史的・社会的意味を探求した。

共同研究としては、個別の問題関心に基づき、テレビ映像文化の歴史的変容過程の分析、テレビ映像文化の歴史の意味の探求を行った。成果発信として、学術シンポジウムの共同開催を行い、報告書3冊を刊行した。

研究成果の概要(英文)：This project regards various archives on television cultures as basic research materials. It was presented for the purpose of establishing a research viewpoint to unify not only television contents studies but also television CM analyses. As result, (1) archives reflected total compatibility of television cultures were constructed. Assuming those basic materials, (2) we inquired into the viewpoint to integrate television contents studies with television CM analyses. Furthermore, (3) we inquired into the historic and social significance of the television cultures.

As a collaborative project, each of members based on individual research interests, developed into the historic meaning and transformation process of television cultures. We participated in some international symposiums and co-hosted academic symposiums. Also, we published three project reports.

研究分野：映像社会学

キーワード：テレビ文化研究 映像社会学 アーカイブ

1. 研究開始当初の背景

私たちをとりまくテレビメディア環境は、20世紀後半から現在に至るまで、社会や日常生活に圧倒的な影響を及ぼしてきた。テレビ番組・テレビCM・映画・ラジオ番組などは、それぞれの時代に入びとが経験した出来事の記録であり、社会の集合的記憶を形成し想起させる文化的・社会的資源と捉えられる。映画100年、ラジオ80年、テレビ50年のそれぞれの歴史を研究するための基礎資料アーカイブを作り上げることは、文化的・社会的資源の形成という重要な性格を持っており、21世紀のデジタル化時代に入り、世界各国で競い合うように推進されている。

この数年、番組アーカイブを用いたテレビ研究は大きな転換期を迎えている。2009年から、NHKアーカイブスが「トライアル研究提案」の一般公募を開始し、採択研究者限定ではあるものの、それまで局内資料に留まっていた番組データを利用した研究が可能となった。2011年には、国立情報学研究所が、実験システムとして構築しているテレビ放送の映像アーカイブシステムを利用し、東日本大震災の社会的影響を学術的な観点から分析する研究の募集を開始した。このように、テレビ番組アーカイブを用いた研究は、急速に推進されつつある。

一方、テレビCMに関するアーカイブ研究では、国際日本文化研究センター共同研究「コマーシャル映像に見る物質文化と情報文化(2004-2006年度)」、京都精華大学「テレビCM研究プロジェクト」(2007年度～継続中)等が展開されてきており、改めて映像・音声データそのものを基礎資料として用いたテレビCM研究に注目が集まっている。

テレビメディアの成り立ちを考えるならば、公共放送(NHK)のみならず、スポンサーシップによって成立している民間放送の研究はきわめて重要である。しかし、民間放送アーカイブとテレビCMアーカイブの連携は、もっとも立ち後れている分野と言わざるを得ない。従来別個に展開されてきたテレビ番組研究とテレビCM研究の連携・融合こそ不可欠であり、本研究はテレビ番組とテレビCMを統合し探求する初のアーカイブ研究として企画立案された。

2. 研究の目的

本研究は、放送文化に関する各種アーカイブズを基礎資料と捉え、テレビ番組のみならずテレビCM分析をも統合する研究視点を確立することを目的とする。放送初期から1970～80年代までを中心に、現在に至るまでの各地のテレビ番組アーカイブ、テレビCMアーカイブをネットワーク化し、さまざまな

個別主題において分析し考察を進めていく。従来のテレビ研究、テレビCM研究は、資料上の制約から制作者側に偏った研究が主であったが、近年のアーカイブズの充実により、テレビ番組・テレビCMを、放送当時の文脈においてオーディエンスの視点から統合的に考えていくことが可能となった。本研究において構築されるテレビ文化アーカイブズは、従来のテレビ文化研究を大きく発展させる決定的な契機となるであろう。

具体的には、次の4つを目的とする。(1) テレビ文化の総合性を反映したアーカイブズの構築、(2) テレビ番組研究とCM分析を統合する視点の探求、(3) 総合的なテレビ映像文化の歴史的・社会的意味の探求、(4) 国際的に発信可能なテレビ文化アーカイブズへの提言。

3. 研究の方法

本研究計画は次の5つのステップで構成する。(1) テレビ番組・CMアーカイブズの検証と系統的拡充・整備、(2) テレビ番組研究とCM分析を統合する視点の探求、(3) 総合的なテレビ映像文化の歴史的・社会的意味の探求、(4) 国際的に発信可能なテレビ文化アーカイブズへの提言、(5) 研究成果の公開と社会的共有である。

それぞれのステップにおいて収集された資料や作成資料(データ)については、最終的にデータベースに統合し、研究者・研究機関等とのネットワークを構築・拡大し、斯界研究者や教育現場での活用に資することを旨とする。また、今後こうしたアーカイブズの拡充ならびに個別構築を念頭に、活用しやすい公的な映像アーカイブズとネットワークデザインの提言を行っていく。

4. 研究成果

初年度から2年度は、研究計画の5つのステップのうち、(1)(2)のステップで共同研究を推進した。

(1) テレビ番組・テレビCMアーカイブズの検証と系統的拡充・整備 既存の番組アーカイブズの検証、 テレビ番組の言語化作業(検索タグの構築)、 既存のCMアーカイブズの検証、 テレビCM言語化作業(検索タグの構築)。

具体的には、大阪市立大学石田佐恵子研究室の番組アーカイブズ、他大学・他機関の番組アーカイブズの比較研究、 京都精華大学CMデータベースの検証と追加作業、 大阪市立大学万年社調査研究プロジェクトCMデータベースの検証と追加作業を行った。

(2)テレビ番組研究とCM分析を統合する視点の探求 分析手法の確立 テレビ番組分析・CM分析のための方法の再検討、番組アーカイブズ・CMアーカイブズからの資料選定、関連情報の渉猟と整理、テレビ番組分析とCM分析を統合する視点の探求。

3年度は、ステップ(1)および(2)の継続に加えて、ステップ(3)総合的なテレビ映像文化の歴史的・社会的意味の探求を中心的に進めた。テレビ映像文化の歴史的変容過程の分析、テレビ映像文化の歴史的意味の探求、と、順を追って研究を進めていった。

さらに、最終年度は、(3)(4)(5)のステップを中心的に進めた。研究成果の公開と社会的共有を目指し、国際シンポジウムへの参加や、学術シンポジウムの共同開催、アーカイブ構築のさらなる推進を行った。また、成果出版物として、報告書3冊を刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9件)

Saeko Ishita, Construction of the public memory of the celebrity: Popular culture museum in Japan, Edited by P. David Marshall and Sean Redmond, A Companion to Celebrity, 査読有、2016, Wiley-Blackwell, pp.135-154

石田佐恵子、映像を介して社会学を考える、社会学史研究、日本社会学学会、査読有(招待論文) No.37、2015、pp.27-45

石田佐恵子・山田富秋、《特集》映像アーカイブズを利用した質的調査の探求 特集によせて、社会学評論、査読有(企画・編集) No.65-4、2015、pp.454-464

石田佐恵子、メディアの共同体と他者 表象について ～アフターテレビジョン時代に向けての覚え書き～、小松和彦・山泰幸編 異人論とは何か 一ストレンジャーの時代を生きる、査読無、ミネルヴァ書房、2015、pp.121-144

石田佐恵子、映像アーカイブズと質的研究の展開、フォーラム現代社会学、査読有(招待論文) No.13、2014、pp.133-143

Saeko Ishita, Collecting, Sharing, and

Consuming Popular Cultures: on the Popular Culture Museum、アジア・レビュー、査読無(依頼論文)、2013、The Seoul National University, Asia Center (ソウル、大韓民国) pp.75-82、韓国語訳 83-93 (韓国語訳および日本語論文同時掲載)

石田佐恵子・岩谷洋史、テレビ映像資料の収集と保存に関する実践的研究 -311 テレビアーカイブ・プロジェクトの事例から-、人文研究、査読有、No.63、2012、pp.109-132

石田佐恵子、ビジュアルデータ・アーカイブズを用いた二次分析の可能性 ～テレビ番組・CMアーカイブを中心に～、社会と調査、査読有(招待論文) No.8、2012、pp.54-63

高野光平、CMアーカイブの旅(連載) vol.24-44、GALAC、査読無、2011.4～2013.3、各回2頁

[学会発表](計 10件)

石田佐恵子、テレビ番組研究とCM研究をつなぐ視点～万年社コレクション・データベースを中心に～、学術シンポジウム「CM研究の展開と発展 日教研共同研究からの10年」(招待講演) 2016.2.9、国際日本文化研究センター(京都府、京都市)

石田佐恵子、番組アーカイブから見る「シルクロード」のイメージ、北京日本学研究中心設立30周年記念国際シンポジウム「アジアにおける日本研究の可能性」(招待講演)、2015.10.25、北京外国語大学・北京日本学研究中心(北京、中国)

石田佐恵子・高野光平、初期テレビCMデータベースから：アニメーションCM表現を中心に (About databases of early TV commercials: Examining representations in animated commercials) 第7回 IMRC 国際学術会議 “Comicology: Probing Practical Scholarship” [コミッコロジー：理論と実践を絡み合わせる新《研究》]、2015.9.26、京都精華大学 国際マンガ研究センター(京都府、京都市)

石田佐恵子、映像の定型表現の起源を探る—映像アーカイブを通して社会と時代を考える—、慶北大学校-大阪市立大学 文化交流事業「日本と韓国、文化交流と相互理解」、2015.05.16、大阪市立大学(大阪府、大阪市)

石田佐恵子、万年社ビデオ資料からみるP

R映像・番組類制作について 萬年社コレクション詳細(ビデオテープ類)について、第3回 萬年社コレクション調査研究プロジェクト報告会、2015.4.11、大阪市立大学文化交流センター(大阪府、大阪市)

Saeko Ishita, Construction of the 'public' memory of the celebrity: Popular culture museum in Japan, 2014.7.3, the Association for Cultural Studies, the 10th Crossroads in Cultural Studies Conference, Tampere Hall, Finland(タンペレ、フィンランド)

石田佐恵子、映像を介して社会学を考える、日本社会学会、大会シンポジウム(招待講演)2014.6.29、尚絅学院大学(宮城県、名取市)

石田佐恵子、映像アーカイブズを利用した質的調査の可能性、関西社会学会、大会シンポジウム2「質的調査の課題と可能性」(招待講演)2013.5.19、大谷大学(京都府、京都市)

Saeko Ishita, Collecting, Sharing, and Consuming Popular Cultures: on the Popular Culture Museum, An International Symposium: "The New Current of Cultural Consumption in East Asia"(招待講演), 2013.3.29, The Seoul National University, Asia Center, (ソウル、大韓民国)

石田佐恵子、ポピュラー文化ミュージアムとは何か(5) 越境するポピュラー文化ミュージアム、日本社会学会、一般研究報告(文化部会)2012.11.3、札幌学院大学(北海道、札幌市)

[図書](計 6件)

石田佐恵子編、テレビ文化研究 第3巻、京都精華大学全学研究センター、2016、全120頁

石田佐恵子・岩谷洋史編、フォト・エスノグラフィーの社会学、大阪市立大学社会学研究室、2015、全110頁

石田佐恵子編、テレビ文化研究 第2巻、京都精華大学全学研究センター、2015、全204頁

石田佐恵子編、テレビ文化研究 第1巻、京都精華大学全学研究センター、2014、全136頁

石田佐恵子・村田麻里子・山中千恵編、ポピュラー文化ミュージアム、ミネルヴァ書房、2013、全373頁

丹羽美之・吉見俊哉編、岩波映画の1億フレーム(記録映画アーカイブ)、ミネルヴァ書房、2012、全362頁

[その他]

ホームページ等

テレビ文化アーカイブズ研究会HP

<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/user/ishita/TCA/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石田 佐恵子 (ISHITA, Saeko)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号: 70212884

(2) 研究分担者

丹羽 美之 (NIWA, Yoshiyuki)

東京大学・大学院情報学環・准教授

研究者番号: 00366824

高野 光平 (KONO, Kohei)

茨城大学・人文学部・准教授

研究者番号: 70401156

前田 茂 (MAEDA, Shigeru)

京都精華大学・人文学部・准教授

研究者番号: 80368042

(3) 連携研究者

なし